



Service Monitor を使用する前に

Cisco Unified Service Monitor (Service Monitor) はシスコ ユニファイド コミュニケーション管理スイートの製品で、Cisco Unified CallManager クラスタおよび Cisco 1040 センサーから Mean Opinion Score (MOS; 平均オピニオン スコア) を受信して分析し、違反が発生した場合にトラップを送信します。

この項では次のトピックについて説明します。

- [概要 \(P.1-2\)](#)
- [Service Monitor のホーム ページ \(P.1-5\)](#)



(注)

Service Monitor を初めて設定するときの詳細については、[P.A-1](#) の「[設定のチェックリストおよびヒント](#)」を参照してください。

概要

Service Monitor は、Cisco Unified CallManager クラスタおよび Cisco 1040 センサーから MOS を受信して分析します。Service Monitor は、センサーまたはクラスタ、あるいはこの両方をサポートします。詳細については、P.1-2 の「データの収集および分析」を参照してください。

Service Monitor は、受信したデータを分析して、MOS がしきい値より下回っている場合にはトラップを送信します。Service Monitor には、サポートされるコーデックごとにデフォルトのグローバルしきい値のセットが 1 つ用意されています。また、Service Monitor では、デフォルトのグローバルしきい値の変更、およびしきい値グループ（センサーしきい値グループおよびクラスタしきい値グループ）を作成することにより、このグローバルしきい値を上書きできます。詳細については、P.1-3 の「しきい値とトラップ」および P.1-4 の「トラップ レシーバ」を参照してください。

Service Monitor 診断レポートに、過去 30 日間に行われたコールのデータが表示されます。クラスタから報告されたデータおよびセンサーから報告されたデータのレポートを作成できます。また、24 時間または 7 日間に違反数が最大であったエンドポイントについてのレポートも作成できます。詳細については、P.2-1 の「レポートの使用方法」を参照してください。

データの収集および分析

Service Monitor は、次のソースが音声ネットワークにインストールされ、適切に設定されると、これらから MOS を受信して分析します。

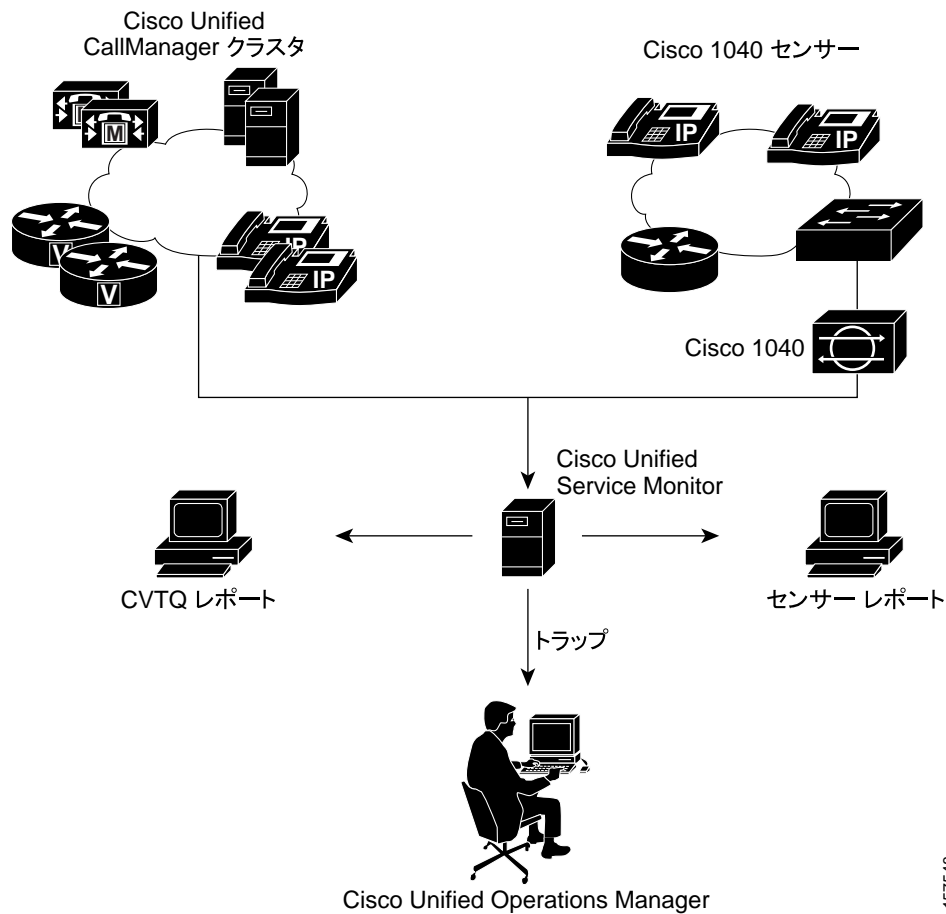
- センサー : Cisco 1040 センサーは、各 Real-Time Transport Protocol (RTP) ストリームの MOS を計算して、syslog メッセージを 60 秒ごとに Service Monitor に送信します。
- CVTQ : Cisco Unified CallManager は、Cisco 音声ゲートウェイおよび Cisco IP Phone からデータを収集します。MOS は、Cisco Voice Transmission Quality (CVTQ) アルゴリズムを使用して、ゲートウェイおよび電話機について計算されます。コールの終了時に、Cisco Unified CallManager はデータを Call Detail Records (CDR; コール詳細レコード) と Call Management Records (CMR; コール管理レコード) に保存します。



(注) Service Monitor をサポートする Cisco Unified CallManager のバージョンについては、『*Release Notes for Cisco Unified Service Monitor 2.0*』を参照してください。

図 1-1 に、Service Monitor によるデータの受信、レポートの作成、およびトラップの送信を示します。

図 1-1 Service Monitor の概要



157548

詳細については、次の項を参照してください。

- [Service Monitor の設定 \(P.3-1\)](#)
- [センサーの管理 \(P.4-1\)](#)

しきい値とトラップ

Service Monitor は、受信したデータを調査して、ユーザ定義しきい値グループの設定値またはグローバルしきい値の設定値の該当するしきい値と MOS を比較します。MOS がしきい値を下回っている場合、Service Monitor は SNMP トラップを生成し、そのトラップを最大 4 つのトラップ レシーバに送信します。

しきい値は、次に対して設定できます。

- **センサー グループ**：センサーおよびエンドポイントを選択して、1 つまたは複数のサポートされるコーデックの MOS しきい値を設定します。
- **CVTQ グループ**：Cisco Unified CallManager クラスタおよびエンドポイントを選択して、1 つまたは複数のサポートされるコーデックの MOS しきい値を設定します。
- **グローバル設定**：1 つまたは複数のサポートされるコーデックのデフォルトしきい値を更新します。グローバルしきい値設定は、他に該当するしきい値がない場合に使用されます。

トラップ レシーバ

Service Monitor は、受信したデータを調査し、コーデックのデフォルトしきい値またはユーザ定義しきい値と MOS を比較します。MOS がしきい値を下回っている場合、Service Monitor は SNMP トラップを生成して、そのトラップを最大 4 つのトラップ レシーバに送信します。また、次からデータを受信したときに、受信したコール メトリックも保存します。

- クラスタ : Service Monitor は、情報をデータベースに最大 30 日間保存します。
- Cisco 1040 センサー : Service Monitor は情報をデータベースに最大 30 日間保存します。オプションで、Service Monitor は、Cisco 1040 から受信したコール メトリックをディスク ファイルに保存します。

Cisco Unified Operations Manager (Operations Manager) を Service Monitor のトラップ レシーバとして設定できます。Operations Manager は、Service Monitor データをさらに分析、表示、および操作できます。Operations Manager では、次の操作を実行できます。

- Service Monitor トラップのイベントの生成
- Service Quality Alerts ダッシュボードへのイベントの表示
- 最大 30 日間のイベント履歴の保存

詳細については、『*User Guide for IP Communications Operations Manager*』を参照してください。

Service Monitor のホーム ページ

Reports タブは Service Monitor のホーム ページであり、ログインすると表示されます。このホーム ページから、最長で過去 30 日間の MOS 統計を表示するレポートを生成できます。

- [センサー レポートの使用法 \(P.2-5\)](#)
- [CVTQ レポートの使用法 \(P.2-9\)](#)
- [Most-Impacted Endpoints レポートの使用法 \(P.2-13\)](#)

Service Monitor の起動

ステップ 1 ブラウザに `http://server_name:1741` と入力します。ここで、`server_name` は、Service Monitor がインストールされているサーバの DNS 名または IP アドレスです。ログイン ページが表示されます。

ステップ 2 ユーザ名とパスワードを入力します。ユーザ名がない場合は、次を使用できます。

- ユーザ ID に `admin` と入力します。
- インストール時に `admin` ユーザ用に入力したパスワードを入力して Enter キーを押します。

Service Monitor のホーム ページが表示されます。

詳細については、次の項を参照してください。

- [ユーザの設定 \(ACS および非 ACS\) \(P.6-7\)](#)

